

「テクノロジー」 2 キャッシュレス社会

私は今日、いくらお金を使ったでしょうか。

私は、家から会社までバスに乗ります。片道 190 円です。お昼ごはんは、会社の食堂でご飯を食べます。今日は 460 円の唐揚げ丼を食べました。午後、自動販売機で 130 円のコーヒーを買いました。仕事が終わったら、またバスに乗って家に帰ります。190 円です。帰りに近くのスーパーに寄って、おかずや飲み物を買いました。1,252 円でした。今日は全部で 2,222 円使いました。でも、私は現金は 1 円も使っていません。現金、つまり、紙幣（1 万円札、5 千円札、2 千円札、千円札）と硬貨（500 円玉、100 円玉、50 円玉、10 円玉、5 円玉、1 円玉）は使いませんでした。バスの料金とコンビニのコーヒーは、ペギンの緑のカード（電子マネー）で払いました。会社の食堂では、会社のプリペイドカードで払いました。近くのスーパーでは、スマホのアプリでお店の QR コードを読み取って、金額（1,252 円）を入力し、「支払う」ボタンを押せば、現金で払う必要がありません。

現金を使わないので、買い物がとても楽です。電子マネーやスマホのアプリを使えば、いつ、いくら使ったか記録が残ります。1 か月に 1 回ぐらい、電子マネーもクレジットカードも使えないお店に行くことがあるので、現金も少し持っています。でも、財布のなかにはいつも 2 千円ぐらいしかありません。

現金を使わない「キャッシュレス」は、とても便利です。フィンランドやエストニア、アメリカ、中国、韓国など、キャッシュレスが進んでいる国がたくさんあります。では、なぜキャッシュレスを進めるのでしょうか。その理由として、紙幣や硬貨は、作ったり運んだりする費用（コスト）がかかります。また、保管する費用や汚れたり破れたお金を回収する（メンテナンスと言います）費用もかかります。日本の場合、製造のコストが約 500 億円、メンテナンスの費用が約 450 億円かかっています。現金を使わないということは他にもあります。スーパーのレジに並んだり、銀行の窓口で待ったりすることもあります。それから、お金はいろいろな人が使います。だれが触ったかわからないお金は、こんな世の中だと、ちょっと心配になります。

こんなに便利なのに、日本に来た外国人観光客からは「日本はキャッシュレスが進んでいない。不便だ」という声をよく聞きます。それもそのはずです。日本のキャッシュレスは、全体の 40% ぐらいなのです。なぜ、日本はキャッシュレスが進まないのでしょうか。ある調査によると、日本では「キャッシュレス社会」に賛成の人と反対の人が半分半分だということです。反対の人の理由は「気がつかずにお金をたくさん使ってしまいそうで、怖い」、「暗証番号が知られるかもしれない」、「地震や台風などで使えなくなる」という心配をする人がいるとのことでした。他にも、使い方がわからないおじいさん、おばあさんがいる、小さい子どもが使えない、という問題点もあります。

しかし、キャッシュレスが進んだら、お金を扱うストレスから解放されて、快適な生活が送れるでしょう。それに、スマホさえあれば銀行口座を持っていない人（unbanked）でもお金のやりとりができたり、お金に関わる犯罪を防止したりすることができます。これから、キャッシュレスはどんどん進むでしょう。

(1327 字)

(2020.12 Written by Ryozo SASAKI)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典: 「たどくのひろば」 (<http://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.